

令和7年度の市政変革の進め方

3 令和7年度の市政変革の進め方

(1) 令和6年度の振り返り

取組みから見えてきた課題

- R6年度の分析対象ではないが、各局で課題の整理や方策検討を早急に行うべきものがある
- 分析作業だけでなく、現場改善やサウンディングなど、アクションの実行が必要なものがある
- 特に管理部門において、利用者（＝職員）の目線で改めて課題を洗い出す意識が働きにくい
- 各局に共通する問題であるため、全庁横断的な視点や考え方を早急に示すことが必要

経営分析だけでは、変革の取組みを進めることが難しい

課題への対応

- 「経営分析」に加え、「局区×方針の設定」「プラチナ市役所プロジェクトの実施」を変革の柱に、全庁的な取組みの進展を図った。
- 「公共施設マネジメント」「政策連携団体」について×会議で重点的に議論、各局に共通の考え方や手順を提示。
- 経営分析は、市政変革推進室が支援を行い、現状分析や変革すべき課題を整理できた。

こうした市政変革の取組みを通じて本質的な課題を直視し、「創る改革」に取り組むきっかけとなった

3 令和7年度の市政変革の進め方

(2) 令和7年度の取組み

令和6年度に引き続き、①各局区のX方針、②経営分析・事業分析、③プラチナ市役所プロジェクトを取組みの柱とする。

各局区の主体的な検討・実行を後押ししつつ、局の枠を超えた検討が必要なものについては、横断検討チームによる検討や、X会議での議論を行い、市全体で、本質的な課題解決に向けた取組みを進める。

